

第4章 積丹町の観光

山下 曜

4.1 積丹半島の四季

積丹町は日本海に突き出た積丹半島の先にある。美しい海岸線島武意海岸や積丹岬、そして神威岬と絶景ポイントを幾つも抱えている。

また海の幸が豊富で、特に取れたてのウニをたっぷり御飯に乗せた生ウニ丼は絶品で、旬のウニのシーズンは6月から9月初旬までである。

積丹の春は、4月上旬にはまだ雪が降ることもあり、5月末までは積丹岳からの強い風が吹く事もあるが、ギョウジャニンニク、タラノメ、ワラビ、タケノコ、ウドなどの山菜取りを楽しむことができる。ゴールデンウィークにはエゾエンゴサク、カタクリ、ニリンソウ、水芭蕉が満開になり、岬や遊歩道の散策でその景観を眺めることができる。

積丹の夏は、グルメとマリンスポーツを楽しむ人達で賑わっている。生ウニ丼を代表とする海の幸を堪能したり、海水浴で楽しんだりと多くの観光客が訪れる。

積丹の秋は収穫の秋でもある。積丹は山の幸も豊富で、新鮮な野菜や牛肉を堪能することができ、また山ブドウやキノコ狩りを楽しむこともできる。9月の最終日曜日には「積丹生き活き祭り」が開催され、地元で収穫された食材や海産物を産地価格で販売している。また、旬のサケ鍋なども毎年用意される。

写真 4.1 積丹の祭り



出典：積丹観光 Web Site

冬の積丹は、寒さの厳しいイメージが強いが、雪化粧した海岸線などの眺めは冬以外には見られない趣がありとても魅力的であることが知られている。厳寒が育んだ冬ならではの味覚を味わえるのもこの時期だけである。この時期のイベントである「どっこい積丹冬

写真 4.2 荒波が寄せる冬の積丹

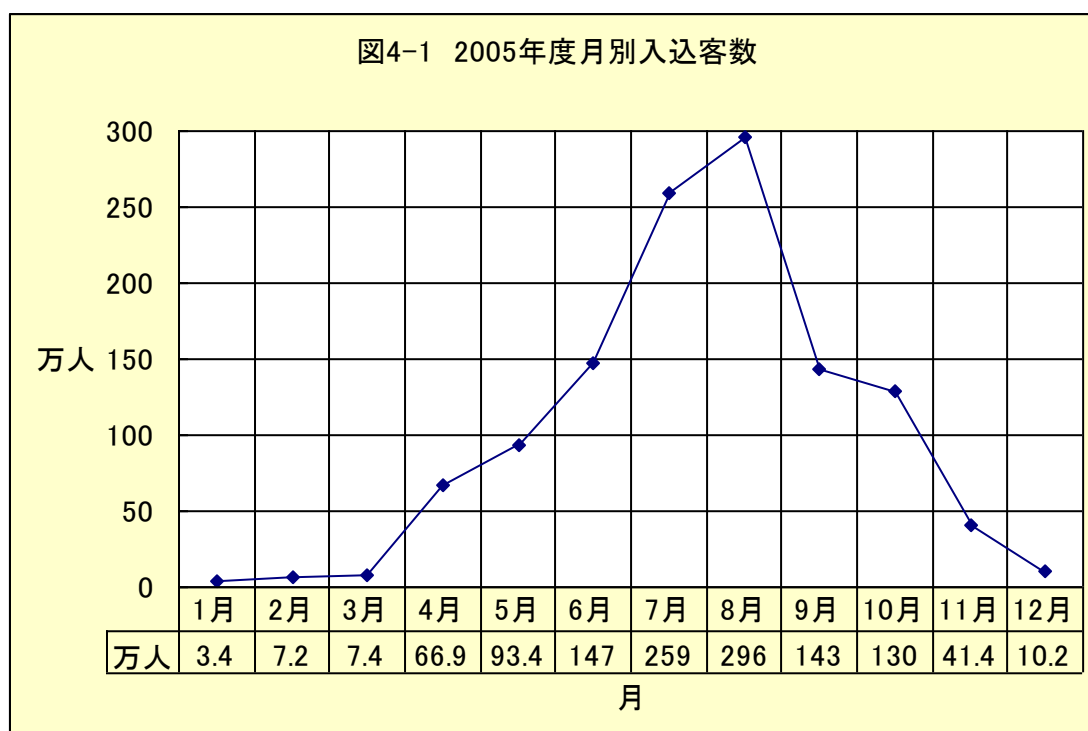


出典：積丹観光 Web Site

の陣」は11月から12月まで2ヶ月にわたり、町内の飲食店、旅館、民宿でオリジナルの鍋料理を用意するほか、ゲストを迎えたスペシャルイベントを開催している。

4.2 観光客

積丹町は、7、8月の入込み客数が突出しているといえる。冬場の観光客の呼び込みが課題であることは明確である。6月と9月の入込み客数が他の月に比べて多いのは、積丹観光協会で力を注いでいる「ドンと来い積丹味覚祭り」、「積丹生き活き祭り」の成果である。



参照：北海道庁HP

後志管内は、平成 15 年度には、国土交通省の事業でもある「観光交流空間づくりモデル事業」の実施地域として選定された。「後志スロー・コリドー構想」（出会い・発見・自分流。スローな旅、しりべし）を基本とし、各関係機関で構成する「後志地域広域連携観光交流推進協議会」を中心にして、民間（観光事業者やNPOなど）と行政（市町村、道、国）が協働して、後志地域が有する地理的優位性（札幌圏から近い）や密度濃く存在する優れた観光資源を活かした自分流のスローな旅を実現できる観光交流空間づくりを目指して、様々な事業が推進されている。

平成 15 年度の入込み客数のデータによれば、後志支庁は支庁別ではトップの 2338 万人で、石狩支庁をも上まわっている。積丹町は、市町村別で小樽市、喜茂別町、ニセコ町、留寿都村、倶知安町に次いで第 6 位の 1291 万人である。

4.3 観光の特徴

4.3.1 観光の目玉

積丹町は明治から昭和初期にかけてニシン漁の大漁場として発達し、当時の番屋、トンネル、旧街道などが保存されている。産業の中心である漁業の中でも特にウニは積丹町の名物であり、6 月のウニ漁、秋のサケ漁、冬のタラ漁と四季を通して水揚げされる。ウニのほかにもイカやツブなど、積丹ならではの海の味覚が満載で海産物の宝庫である。また、積丹町は海の幸だけでなく山の幸も豊富で、町の中には新鮮な地元の食材をおいしく提供してくれる飲食店や旅館、民宿が数多く存在する。

また、積丹町では観光協会と連携して年間を通じて観光客を呼びこもうと、夏場から冬場にかけていくつかのイベントを毎年開催している。

4.3.2 観光イベント

①「ドンと来い積丹味覚祭り」

毎年 6 月下旬の日曜日、美国漁港広場で生ウニの浜値販売を目玉とする「浜値朝市」を皮切りに、積丹名物のウニ丼、イカ、ツブ焼き、魚介類をたっぷり使ったジャンボ浜鍋など、積丹の海の幸を存分に味わえる祭りである。よさこいソーラン、鯉場音頭、幌武意太鼓なども祭りを盛り上げる。例年 6 月開催の「ドンと来い積丹味覚祭り」であるが、例年 8 月開催の「お神威ソーラン祭り」とがひとつとなり、2006 年から「積丹ソーラン味覚祭り」として生まれ変わり 6 月 25 日（日）美国漁港広場で開催された。例年好評を得ている「浜値朝市」では、積丹産の旬の生ウニ、鮮魚をどこよりも安く提供する。えび、ホタテ、ほっけのすり身などが入った直径 150 c m 大鍋でつくる積丹ならではの浜鍋やステージでの鯉場音頭や歌謡ショーは例年と変わらないが、最後には花火大会と盛りたくさんのイベントになった。

②「火まつり」

毎年 7 月、海の安全と豊漁を願って行われるのが「火まつり」である。大漁旗が海を華やかに彩る海上渡御、神輿や山車のパレード、出店などで町内はにぎわい、夜には勇壮な神事「天狗の火くぐり」でクライマックスを迎える。闇に映える炎の中で繰り上げられる幻想的なまつりをひと目見ようと、大勢の人たちが訪れる。

③「積丹生き活き祭り」

毎年 9 月最終日曜日、積丹の秋の大収穫祭である「積丹生き活き祭り」が開催される。魚介類など海の幸だけでなく、果物や野菜ほか町内の特産品を格安の産地価格で販売、道内外への発送もその場で受け付けている。サケ鍋 500 食の無料サービスのほか、抽選で 100 名に生サケのプレゼントもある。

④「どっこい積丹冬の陣」

2 ヶ月にわたる冬の一大イベントである「どっこい積丹冬の陣」は 11～12 月にわたって開催される。積丹で冬だからこそ味わえる鍋料理などをたっぷり楽しんでもらおうと、「積丹。今年の冬も熱くなる。」を合い言葉に繰り広げる祭りである。旅館、民宿、飲食店から温泉、商店と街をあげてのあたたかいもてなしが大好評である。

4.3.3 積丹町のおみやげ

積丹町観光協会ホームページでは、積丹町のおみやげとして積丹岳の麓に湧き出る伏流水で造った地酒で、純米しぼりたての鮮烈な味が楽しめる生原酒「丹水」、積丹の思い出を彩るオリジナルワインで、赤・白いずれもやや辛口の「しゃこたんワイン」、純生原酒「丹水」の酒粕で作った「甘酒」、こしあんたっぷりのひとロサイズの黒糖まんじゅう「どっ来いまんじゅう」を紹介している。

4.4 観光スポット

①積丹岬

二人が並んで歩けるぐらいの幅の島武意海岸^{しまむい}トンネルは、島武意海岸を望むおすすめ絶景ポイントへの入り口である。暗いトンネルを抜けると、明るいシャコタンブルーの海が目飛び込んできて、大パノラマが一気に広がる。積丹半島へ続く遊歩道からは、「女郎小岩^{じょうろう}」や日本の渚百選に選ばれた「島武意海岸」を望むことができる。また、積丹半島の北端に位置し、岬から東側に黄金岬、西側に神威岬を望むことができる。

写真 4-3 積丹岬の絶景



出典：積丹観光 Web Site

②宝島

黄金岬の先にある美国のシンボルである宝島は、かつて大きな富をもたらしたニシンの大群が押し寄せたことから、その名がついたといわれている。近くに浮かぶ小さな島は、ゴメとも呼ばれるカモメが羽を休めている姿に似ているため、ゴメ島と名付けられている。

写真 4-4 宝島



出典：積丹観光 Web Site

③^{びくに}美国港

町内に7カ所ある漁港のひとつである。ここから、ホッケやイカ、アワビ、ウニなどの日本海の海の幸が陸揚げされる。釣り好きにも人気のある場所で、ゴールデンウィークの頃から岸壁は、竿を持った人でびっしりの良好な漁場でもある。

④^{びくに}美国神社

享保10年（1726年）、小泊村（現・美国小泊）に創建され、大正3年に現在地に移転し

た。鳥居をくぐると、細かな木彫を施した神殿が、長い年月にわたって海のまちを見守り続けてきた歴史を感じさせてくれる。

⑤神威岬

大海原へとダイナミックにせり出した神威岬の先端までは、駐車場から約 770m である。両側に日本海の雄大な眺めが広がる遊歩道「チャレンカの小道」をたどっていくと、20 分ほどで周囲 300 度の丸みを帯びた水平線を見ることができる。また、北海道各地に義経伝説が伝わっているが、神威岬にも義経伝説があるといわれている。

写真 4-5 夕日の沈む神威岬



出典：積丹観光 Web Site

積丹半島はニセコ積丹小樽国定公園に含まれており、積丹の海は北海道で唯一、海中公園に指定されている。平成 16 年には「積丹半島と神威岬」が北海道遺産 52 件の内の 1 件に認定され、次の世代に引き継ぎたい北海道の大切な宝物であると認められた。

参考 HP：積丹観光 Web Site <http://www.kanko-shakotan.jp/index.html>

北海道後志支庁のホームページ <http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/index>

積丹 YH http://www.youthhostel.or.jp/c_syakotan.htm

北海道の公式ホームページ <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>